

- 学校教育目標「心身ともに健康ですぐれた知性と正しい判断力を持ち、21世紀に生きる心豊かでたくましい生徒の育成」の具現化のために家庭・学校・地域が一体となった教育活動を推進する。
 ○ 地域に貢献し、地域から信頼され、地域に誇れる学校づくりに、生徒・職員が力をあわせて取り組む。

重点目標	達成目標(評価項目)	評価指標	学校の方策・手だて	学校の自己評価コメント(結果の考察・分析)	自己評定		外部評定	学校関係者のコメント	次年度への改善策等
					指標別	総合			
1 生徒指導の充実	① 教師の見届け指導、先回り指導の徹底を図る。	見て見ぬふりをせず、個々の生徒に向き合って指導を行う。	・登校指導におけるその場での声かけと指導 ・廊下や教室での常時指導	○常時指導の結果、生徒も落ち着き身だしなみもよくなった。	3.3	3.0	3.5	○ 以前と比べてすっきりとした行動が見られる。(登下校) ○ 服装の乱れがなくなった。 ○ あいさつが良くなった。(自分たちからあいさつする傾向がでてきた。) ○ 身だしなみが毎年良くなっている。本年度は特に良い。 ○ 校門や校内でのあいさつが良い。 ○ 立止式での決意はよかった。宣言したのだから、有言実行してほしい。 ◎ 登校中、小学生の横を自転車通学生が通行する際、危険などで指導や対策を講じてほしい。 ◎ 命を大切にしようとする心を植えつけることが大事である。 ◎ ほめることが大事。今がチャンス。	※ 今後も継続指導を行う。 ※ 教室の棚が不足している(2年)早急の対応が必要である。 ※ 係活動を生徒を動かす。 ※ 昼休みを利用した巡回指導を全学年で行っていく。 ※ 学年で共通理解する時間を確保していく。 ※ 生徒の意識高揚と委員会活動を通して活性化を図る。 ※ 部活動のキャプテン会の活性化を図る。 ※ 電話連絡だけでなく積極的に家庭訪問を行う。 ※ 小中連携と地域連携をより推進していく。
		教室の整理整頓を確認している	・放課後の確認を毎日実施 ・直直の確認 ・放課後、委員会の活動を実施	○年間通して徹底してきたが、学級差がある。	3.2				
	案間などトイレや空き教室など巡回している	・空き時間を利用した巡回	○空き時間に見ている。 ○学年で巡回指導を決め昼休み廊下で指導。	3.1					
	② 学年や生徒指導部の組織としての対応を徹底する。	学年や生徒指導部と連携を図っている	・学年職員間で連携した指導	○連携はとれている。今後も継続指導を行い現状維持に努めていく。	3.4				
2 学力向上	① 学習訓練を徹底し、学びの場の質の向上を図る。	生徒の登校をあいさつや清掃しながら、または、教室で迎えている。	・学級担任による教室での迎え入れ ・副担任による靴箱周辺での迎え入れ ・毎朝、学習会の実施	○よく取り組んでいる。(3年) ●生徒の登校時間と職員の勤務時間の差があり物理的な問題がある。	3.1	2.9	3.1	○ 教師の表情が良く授業が明るくなった。 ○ 生徒が集中していた。笑顔があり、声も大きかった(1年英語) ○ 板書するものをカードにして興味を引くような提示をしていた。 ○ 板書がきれいで文字も大きく見やすかった。 ○ 教材に対する準備に手が行き届いている。 ● 一部板書がなかった。単元名や目標は必要(何の授業かわからない) ◎ 姿勢が気になる。姿勢がよくなれば頭の働きも良くなる。 ○ 立止式など、学力向上につながっていく(自己表現の場) ◎ 地域人材の活用は、教科指導ではなかなか難しい。	※ 各教科で効果的な活用を推進する。 ※ すべての教科で学習課題を提示していく。 ※ 教科で今後も工夫・改善を推進していく。 ※ 生徒指導の機能を生かした授業の構築を図る。 ※ 点検簿の活用、係の生徒への指導。 ※ 学習指導徹底週間を活用して項目ごとに重点指導を図る。 ※ 係り活動の活性化を図る。 ※ 計画的な地域人材の活用を図っていく。
		校内外のボランティア活動に取り組みむよう進めている	・部活動でのあいさつ運動 ・通学路のゴミ拾い(野球部)	●エコキャップ、あいさつ以外のボランティアはどうなのか ●時間外の取組で対応できる職員に限られている。	2.5				
	④ 小学校や家庭・地域との情報の共有化を図り、より良い本郷中学校を目指す。	保護者と連絡をとったり家庭訪問をしたりして連携をしている 小学校や地域、関係機関と連携を図っている	・朝の欠席連絡の受信と担任への連絡 ・欠席の時に必ず電話連絡 ・小学校との研究推進(合同部会) ・地域行事への積極的な参加	○保護者と連絡はとれている。 ○本年度は小中連携は良くできた。 ○地域行事へも多くの生徒が参加した。	3.0 2.2				
	実物投影機などの教育機器の効果的な活用を行っている	・教科書や資料の提示 ・パソコンによるプレゼン機能の活用	○教科書によってはよく活用している。 ●実物投影機を学級で保管したい。(教室にあった方が使用回数が増える)	2.8					
3 特別支援教育の充実	② 生徒指導の機能を生かした授業の構築を図る。	本時の学習課題を提示している	・カードで提示 ・毎時間課題と目標を区別して提示	○意識して提示することで生徒も学習内容を明確に把握できる。	3.1	2.5	2.5	○ 立地として関係機関が近く連携のとりやすい環境にある。 ● 学級担任と教科担任とのつながりがむずかしい。 ◎ 特別支援学級の生徒との関わりで、他の教師がしかりをしてやると、生徒は変わっていく。 ◎ スクールサポーターや教育アシスタントと教科担任がしっかり連携してほしい。	※ スクールサポーターとの連携と教科担任との連携を図る。 ※ 個別の支援計画を活用した学習支援を行う。 ※ 学年または全体でのケース会議を増やしていく。(月1回など) ※ 保護者や本人との相談体制を強化していく。
		ワークシートやノート指導の工夫など行っている	・進捗に合わせたワークシート作成 ・自己評価表で授業の振り返り ・ノートを記入する時間の確保	○教科担任同士でワークシート等共有している	3.1				
	③ 教師一人一人が様々な週間等を生かした授業の充実・工夫を図る。	考える時間・表現する時間を確保した指導過程を工夫している。(自己決定力)	・意識したさん・くん付けの呼名	○意識して時間を確保することで生徒も真剣に取り組むようになった。	3.1				
	1単位時間における多くの生徒の指名や声かけ、「さん・くん」付けの呼名を行っている(自己存在感)	・ベア学習をソシオメトリーで実施 ・ベア学習(英語科) ・ソーシャルスキルトレーニング	○賞賛の場を設定することは大切である。	2.8					
4 地域教育の推進	③ 教師一人一人が様々な週間等を生かした授業の充実・工夫を図る。	2分前着席と1分前黙想を率先垂範し、生徒の委員会活動によって指導を徹底する	・係活動の指導 ・点検活動への声かけ	○行っている。今後も継続をしていく。 ◎ 教師がまずその場にいるべき。	3.2	2.6	2.8	◎ どんどん宣伝(PR)してほしい。 ◎ オープンスクールなど地域住民へ案内してほしい。 ◎ PTA広報の回覧はできないか(班数分) ◎ PTAと協力して掲示板や文書などで学校の取組や行事を示すと良い。	※ 職員研修の実施と保護者、生徒への啓発を行う。 ※ 定期的な参観日やオープンスクールを地域にも呼びかけていく。 ※ 今年度の評価方法をベースにして次年度さらに改善して実施していく。
		「授業の心得」を意識した指導を行っている	・三校統一の「学習」の心得へ変更	●教科担任が一声かけると意識ようになる。 ●ノートをきれいに記入させるには板書の工夫が必要。	3.0				
	「飛躍」を書かせる指導と提出点検とコメントの記入を行っている	・帰りの会での記入の時間の確保	●できている学級とそうでない学級がある。(2年) ○生徒の係が動いている学級は多い。(3年)	3.1					
	④ 日々の授業に地域人材等の積極的な活用を図る。	地域教材などを意図的に取り入れている	・家庭科による幼稚園での保育実習 ・職場体験学習の実施 ・職業に関する講話の実施	●総合学習ですべて各教科での活用は難しい。 ●3年生の面接指導に参加していただくと緊張感が増して良いのではないかと。	1.9				
3 特別支援教育の充実	① 校内支援体制の充実を図るとともに各種研修を通して、個々に応じた具体的な支援の在り方を実践する。	個々の生徒の状況を把握して、教科担任やスクールサポーターと支援方法について確認している	・スクールサポーターによる個別指導 ・スクールサポーターと学級担任との情報交換	○スクールサポーターの関わりで生徒に変化があらわれた。 ○大半の生徒は理解してうまくつきあっている。 ●支援計画等が機能しているのかわからない。	2.7	2.5	2.5	◎ どんどん宣伝(PR)してほしい。 ◎ オープンスクールなど地域住民へ案内してほしい。 ◎ PTA広報の回覧はできないか(班数分) ◎ PTAと協力して掲示板や文書などで学校の取組や行事を示すと良い。	※ 職員研修の実施と保護者、生徒への啓発を行う。 ※ 定期的な参観日やオープンスクールを地域にも呼びかけていく。 ※ 今年度の評価方法をベースにして次年度さらに改善して実施していく。
		個々の生徒に応じた支援計画を作成し、役立てている	・個別の支援計画の作成と個別指導の実施	●ケース会議など、各生徒とどう対応していくべきかまめに話し合う必要がある。	2.0				
	特別支援コーディネーターを中心に、ケース会議(学年会を含む)も実施している	・ケース会議の実施	●ケース会議など、各生徒とどう対応していくべきかまめに話し合う必要がある。	2.0					
	② 保護者や関係機関との連携を図りながら、生徒を中心にすえた特別支援教育の充実を図る。	生徒の状況に応じて、保護者や関係機関と連絡や相談を行っている	・赤江まつばら支援学校や発達支援センターとの連携 ・保護者との連絡・相談の実施	○学級担任がよく連絡している。	2.9				
4 地域教育の推進	① 地域から信頼され、地域に貢献する学校づくりを推進する。	地域行事への参加やwebページによる情報発信を行っている	・webページのリニューアル ・学年や部活動のコーナーの更新 ・各日の給食の更新	●部活動単位など一部の先生に頼りがち、webページの研修がほしい。	2.7	2.6	2.8	◎ どんどん宣伝(PR)してほしい。 ◎ オープンスクールなど地域住民へ案内してほしい。 ◎ PTA広報の回覧はできないか(班数分) ◎ PTAと協力して掲示板や文書などで学校の取組や行事を示すと良い。	※ 職員研修の実施と保護者、生徒への啓発を行う。 ※ 定期的な参観日やオープンスクールを地域にも呼びかけていく。 ※ 今年度の評価方法をベースにして次年度さらに改善して実施していく。
		② 保護者や地域の方々とともに活動する学校教育活動の工夫をすすめる。	参観日や学校行事等の内容を工夫して、保護者や地域の方々も参加しやすいようにする	・日帰りの影響で第2回参観日を中止 ・授業案の作成・配付 ・学級相談の工夫	●1回の参観日中止で学校や生徒の様子を伝えられなかった。				
	③ 学校評価制度の効果的な活用を工夫する。	学校評価を体系的に行うために、組織・評価方法等を改善していく	・学校経営ビジョンに連動した評価項目・評価指標の設定 ・教職員、保護者、生徒のアンケートの連動	●発問のとらえ方に差がある。すべてに取り組むのではなく、重点的にいくつか取り組んでいくと良い。	2.3				

【総評】◎ 教職員、保護者、生徒の三者が同じ評価指標で評価し、それを総合的に学校評価(自己評価)としてまとめていくことは良い。
 ◎ 日々前進して、学校全体がよくなってきている。この状況を維持しさらに向上を目指してほしい。そのためには、生徒指導、学習指導、地域との連携を充実させてほしい。